

学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、小中一貫教育9年間で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の教育目標を設定する。

【9年間で目指す人間像】

知性にあふれ 正しく判断できる人

心豊かで 品格のある人

健康で 行動力のある人

【教育目標】

よく考える子

思いやりのある子

体をきたえる子

■■■ 学力向上にかかわる学校経営計画 ■■■

○児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

○東京ベシックドリルやタブレット教材(ドリルパーク)を積極的に活用し、普段の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。

○各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。

本校における確かな学力

自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

確かな学力

未来を創る  
(学びに向かう力、人間性等)

深く考える  
(思考力、判断力、表現力等)

基礎力  
(知識及び技能)

【 各教科の指導の重点 】

・体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

・算数科においては、習熟度別指導加配教員、時間講師、学力向上支援講師を活用し、習熟度別学習集団による指導を行い、習熟度や興味関心に基づくきめ細やかな指導を行う。

・国語科においては、記録、要約、説明、論述等の言語活動および各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力の育成を図る。

・開進第四中学校との小中一貫教育において作成した取り組みプログラムに基づき、9年間を見通した学力の向上を図る。

道徳の指導の重点	外国語および外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	キャリア教育の指導の重点
学校教育全体を通じて、それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させ、統合させたりする中で道徳科の時間の充実を図り、道徳性を育成する。 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動における道徳教育と密接に関連を図りながら、計画的、発展的な指導を行う。	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる指導の充実を図る。 日本語とは異なる外国語の音に触れ、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成し、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりする指導の充実を図る。	体験的な学習に取り組み、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。 体験活動をしたり、調べたりしながら、必要な情報を集め、得られた幅広い情報を整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験と結び付け、自分の考えや意見、発見したことなどをまとめ、表現する指導の充実を図る。	児童の自主的、自立的な活動を重視し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う指導の充実を図る。 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。	児童一人一人の人格を尊重しながら、規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。 児童の実態を把握し、学校全体で組織的な指導を行うとともに、学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。	各教科等の指導を通じて、学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。 キャリア・パスポートを活用しながら、学級活動等において、自己の悩みや葛藤、将来の夢などの課題を積極的に取り上げ、考えを深める指導の充実を図る。また、家庭や地域と連携した指導を行う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
別紙参照 (国語・社会・算数・理科)	○朝学習の充実 漢字や計算を中心とした基礎的・基本的な学習の徹底および発展的な学習の充実を図る。	○小中一貫教育 自他の大切さや情報の大切さ・情報の権利を理解し、インターネット上のルールやマナーを守り、情報を閲覧したり、発信したりする力の向上を図る。	○基礎的・基本的学力の定着 評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人にきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。	○学校行事および授業公開 学校公開、学校行事等、常に学校を開くとともに、アンケート等から期待や要望を受け止め、授業改善に生かす。
	○読書活動の充実 朝読書の実施、読書月間の設定や図書館や保護者ボランティアにおける本に親しむ活動を設定することで読解力の向上を図る。	○校内研究 教科・領域を特定せず、互いに関わり合い、高め合いながら主体的に学ぶ児童の育成をめざす。	○授業における学習状況の把握 普段の授業における学習状況を小テスト、中間指導、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。	○学校評価の活用 学校評価の結果を分析するとともに学校評議員に説明し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善および授業改善に生かす。
				○学校 HP や タブレット(クラスルーム)の活用 学校生活の様子を発信し、家庭や地域の協力により家庭学習の定着と生活習慣の確立を図る。

# 指導内容・方法の工夫

## 国語科指導の工夫

### 「言語活動」の指導の充実

国語科においては、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することが、最も基本的な目標とされている。また、知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であることから、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科を中心として「言語活動」の充実を図る。

#### ■■■授業改善の具体策■■■

国語科の学習における「話すこと・聞くこと」「書くこと」および「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる言語の能力を身に付けさせるため、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など、学校や児童の実態に応じて言語活動の充実を図る。

#### 《各領域における言語活動の具体例》

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
第1・2学年	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする。	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする。	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。
第3・4学年	図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする。	疑問に思ったことを調べて報告する文章を書いたり、新聞に表したりする。	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う。
第5・6学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする。	意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む。

### 「読むこと」の指導の充実

文章の詳細な読み取りに陥り、叙述に基づかない「思いつき発言」に終始してしまつては、意図的・計画的な指導は展開されず、児童に「読む能力」を育むことは難しい。「読む能力」を育むことは、現在、国を挙げて取り組んでいる「読解力」の育成にもつながるものであり、指導の充実を図る。

#### ■■■授業改善の具体策■■■

「読むこと」の学習で実現すべき目標は、学習指導要領に下のように示され、重点的に取り組む必要がある。「読解力」を育むためには、教材文が「分からない」から「分かる」へ、さらに、「分かる」から「より分かる」ように児童を変容させていくことが必要である。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を行う。

#### 《読むことの目標と読み解く視点》

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>事柄の順序 場面の様子</b> 順序に従って内容をおさえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりする。	<b>内容の中心 段落相互の関係</b> 文章の部分としての段落、段落と段落との関係、文章全体の関係、大事なところはどこかなど、筆者の主張や述べ方に目を向けさせる。 説明的文章…中心語句、中心文、中心段落 文学的文章…物語の山場、感動的な場面	<b>内容の把握 要旨の把握</b> 作者や筆者の述べたい内容や述べ方を捉える。それぞれの文章のもつ表現や文体に表れた意図や工夫、論理等をおさえながら自分の読み取り方をし、意見をもつ。

#### ■■■ICTの活用の具体策■■■

タブレット端末の中にあるまなびポケット「ドリルパーク」の国語を活用し、漢字の書き順や読み、書きの練習を繰り返し行うことにより、漢字学習の定着を図る。繰り返し、何度も練習ができるようにする。オクリンクを活用し、自分の考えを提示し、全体で共有しながら、話し合い活動を行う。

社会科指導の工夫

資料活用の段階的指導

社会科においては、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて自分の考えを適切に表現したりすることが一層重視されている。そのための系統的、段階的な資料活用能力の育成を図る。

授業改善の具体策

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育成するための指導の充実を図る。

第3・4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"><li>資料から必要な情報を読み取る。</li><li>資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。</li><li>必要な資料を収集する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>資料から必要な情報を読み取る。</li><li>資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。</li><li>複数の資料を関連付けて読み取る。</li><li>必要な資料を収集したり選択したりする。</li><li>資料を整理したり再構成したりする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>資料から必要な情報を的確に読み取る。</li><li>資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。</li><li>複数の資料を関連付けて読み取る。</li><li>資料の特徴に応じて読み取る。</li><li>必要な資料を収集・選択したり吟味したりする。</li><li>資料を整理したり再構成したりする。</li></ul>

問題解決の過程を意識した指導

「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」という問題解決的な過程を意図的に授業に位置付ける。ワークシートやノートを使用する際も「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れさせるようにし、問題解決の過程を児童に意識付ける指導を行う。また、よりよい社会を考え主体的に問題解決をしようとする意欲が高まるような資料を提示する。

ICTの活用の具体策

調べ学習においては、教科書や資料集だけではなく、タブレット端末を活用し、新しいデータを使用した学習を展開する。また、ムーブノートを活用して、多様な考えを知る機会を設ける。思考を整理する際にも、ジャムボードなどを活用し論理的に考えさせる。

算数科指導の工夫

問題発見・解決能力を身に付けさせる指導

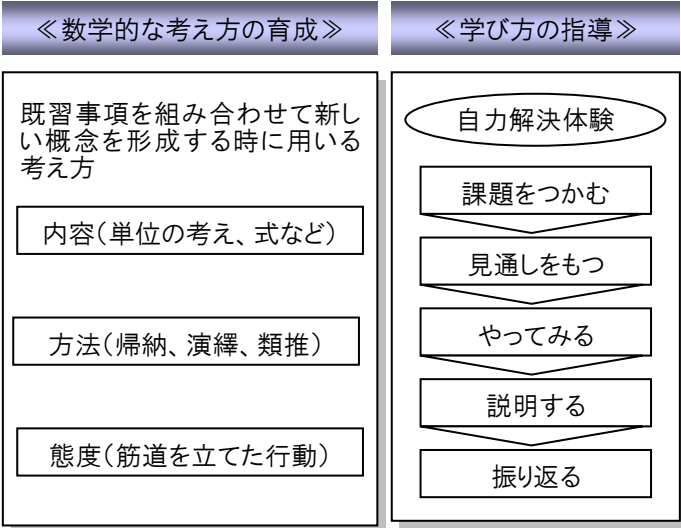
算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

授業改善の具体策

「課題をつかむ」「見通しをもつ」「やってみる」「説明する」「振り返る」などの問題を解決する過程を意識的に授業に位置付け、見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が必要に応じて、具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な学習活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。

ICTの活用の具体策

タブレット端末の中にあるまなびポケット「ドリルパーク」の算数を活用し、計算練習を繰り返し行うことにより、計算技能の向上を図る。また、全学年の復習を行うことで既習事項を意識して、問題解決に向かうことができるようにする。



## 「理科の見方・考え方」を育てる指導

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき理科の考え方は右のように示されており、理解においても問題解決的な学習が重視されている。児童が自然の事物・現象に関心をもち、そこに問題を見出し、解決する方法を考え、観察・実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について相互に話し合う中から、結論として科学的な見方や考え方をもつことができる指導を行う。

### ■■■授業改善の具体策■■■

学習ノートやワークシートを使用する際にも、「問題」「予想」「実験」「結果」「考察」「結論」などの記述を積極的に取り入れるよう働きかけ、問題解決の過程を児童にも意識付ける指導を行う。また、何が同じで何が違うか(比較)、変化を引き起こす要因は何か(関係付け)、どの条件を変えて比べるか(条件制御)、いくつかの結果から分かることは何か(多面的に考える、追究)など、学年に応じて児童に働きかける視点を明確にし、科学的な思考力を育む指導を行う。

また、観察・実験において、結果を表やグラフに表したり、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化したり、モデル図に表したりして表現することを重視し、言語活動の充実を図る。さらに、問題解決的な学習方法について、中学校との接続を図る。

### ■■■ICTの活用の具体策■■■

オクリンクを活用し、自分の考えを提示し、全体で共有しながら、話し合い活動をする。また、実験のまとめや観察の記録などをタブレット端末を使って、レポートとしてまとめる活動を多く取り入れる。タブレットでレポート等を作成することにより、加除・訂正を適宜行うことができ、思考力を高める。

### 《各学年で育成する理科の考え方》

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
比較	関係付け	条件制御	多面的に考える

### 《理科における問題解決の過程》

